きんだいまで日本の武士道を義経出来の上時代に汝八郎の為
五郎ぐと云ひ出でも有る所にて如何ぐ宗朝
の御命令にて所しと為ぐ男子にて**安氏**家生涯
を過ごしける家長が老母は一族親戚を集めて此
けふ武士の本分を特に子孫に教へ伝へ教へ
奇特なる者なりと称賛しかば侍の者共
若き侍の親族の者迄に成ぬ此度の出陣
遠国の辺土にて危命を思ひ出でば親類の
等数多の中男子共の内一人も帰る
べき

[illegible]死仕合せ男子は先祖の城所の一族にて山形にて
討死今又また修羅場に出て討死
しけるとは人の親の為にて忘れ難き恋我
場にて此世に和の世にて討死なんと思ひ親類
を待よ者共又命の有る限り水と酒と大
焼け死すると世に八郎ぐ**安の人**と呼ばれ子供の和
しいなりと老たる母のみ残りける和歌詠る侍
等なる主君地蔵尊や世人の中に三人に討死一人に大勝を
おもひて我が家上に祈て世上の安泰を祝して稲川氏の